

《担当者名》○竹生礼子 [take-r@hoku-iryo-u.ac.jp]
 川添恵理子 [e-kawa@hoku-iryo-u.ac.jp]
 鈴木英樹(川) [hideki-suzuki@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

病や障害とともにある療養者と家族が、暮らしの場において、可能な限りの最高のQOLの獲得をめざす看護について理解するために、在宅療養者の健康と生活に活用できる理論やモデルに基づいた、家族アセスメント、セルフケアアセスメント、生活環境アセスメントを学ぶ。

【学修目標】

1)在宅療養者の理解及び在宅看護を提供する基盤となる理論について文献の読解、討議を通じて理解を深めることができる。
 2)在宅療養者・家族の健康と生活のアセスメントに活用できる理論やモデルに基づいて、療養者の家族アセスメント、セルフケアアセスメント、生活環境アセスメントを行うことができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	在宅看護の特性(1)	在宅看護の定義(広義の定義、狭義の定義) ケアの理念 学生・教員によるディスカッション	竹生 川添
2	在宅看護の特性(2)	在宅看護を支える理論 文献(Leslie Near-Boylan: Clinical Case Studies in Home Health Care)から、在宅看護の中心となる概念と特性をとらえる。 文献をよみ学生が要点をプレゼンテーションする	竹生 川添
3	在宅看護の特性(3)	在宅看護を支える理論 文献(Leslie Near-Boylan: Clinical Case Studies in Home Health Care)から、在宅看護の中心となる概念と特性をとらえる。 文献をよみ学生が要点をプレゼンテーションする	竹生 川添
4	健康と生活のアセスメント(1)	健康と生活の総合的アセスメント～理論の理解 ・ICFの理解 文献の要点を学生がプレゼンテーションし、ディスカッションする	竹生 川添
5	健康と生活のアセスメント(2)	健康と生活の総合的アセスメント～理論の理解 ・訪問看護アセスメント・プロトコル ・生活行為のアセスメント ・地域のアセスメント 文献の要点を学生がプレゼンテーションし、ディスカッションする	竹生 川添
6	健康と生活のアセスメント(3)	健康と生活の総合的アセスメント～理論の理解 ・理論を用いて、実践事例の健康と生活をアセスメントする 学生による事例の提示	竹生 川添
7	健康と生活のアセスメント(4)	健康と生活の総合的アセスメント～理論の理解 ・理論を用いて、実践事例の健康と生活をアセスメントする 学生・教員によるディスカッション	竹生 川添
8	家族のアセスメント(1)	在宅で療養する人の家族を理解するための理論の理解 ・家族発達理論 ・カルガリー式家族アセスメントモデル 講師による講義	竹生 川添 川村真澄 (特別講師)
9	家族のアセスメント(2)	在宅で療養する人の家族を理解するための理論の理解	竹生 川添

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		・渡辺式家族アセスメントモデル ・家族生活力量モデル 講師による講義	川村真澄 (特別講師)
10	家族のアセスメント(3)	事例を用いて家族をアセスメントする (理論の一つを使って事例をアセスメント) 学生による事例の提示とディスカッション	竹生 川添 川村真澄 (特別講師)
11	家族のアセスメント(4)	事例を用いて家族をアセスメントする (理論の一つを使って事例をアセスメント) 学生による事例の提示とディスカッション	竹生 川添 川村真澄 (特別講師)
12	セルフケアアセスメント(1)	セルフケアアセスメントモデルの理解 ・オレムのセルフケアモデル ・ペンダーのヘルスプロモーション 学生が文献をしらべて、理論についてプレゼンテーション	竹生 川添
13	セルフケアアセスメント(2)	事例を用いて、在宅療養者のセルフケア行動をアセスメントする (理論の一つを使って事例をアセスメント) 学生による事例の提示とディスカッション	竹生 川添
14	生活環境のアセスメント(1)	生活環境のアセスメント方法の理解 ・生活環境のアセスメント 講師による講義	鈴木 竹生 川添
15	生活環境のアセスメント(2)	療養者の生活環境をアセスメントする 学生による事例の提示と演習・ディスカッション	鈴木 竹生 川添

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

討論への参加(30%)、プレゼンテーション(30%)、プレゼンテーション資料(40%)

【教科書】

適宜選択

【参考書】

1. Milton Mayeroff : On caring. WILLIAM MORROW. 1972.
10. ノラ J. ペンダー : ペンダー ヘルスプロモーション看護論. 日本看護協会出版会. 1997.
11. 東京商工会議所 : 福祉住環境コーディネーター検定試験1級テキスト. 2016.
12. 久間 圭子 : ローパー・ローガン・ティアニー看護モデルの実践 生活行為に基づく看護過程. メディカ出版. 2007.
13. 木村哲彦監修 : 生活環境論. 医歯薬出版. 2010.
2. Leslie Neal-Boylan: Clinical Case Studies in Home Health Care. WILEY-BACKWELL. 2011.
3. 上田 敏 : ICF(国際生活機能分類)の理解と活用 人が「生きること」「生きることの困難(障害)」をどうとらえるか. きょうされん. 2005.
4. 山内豊明監修 : 生命・生活の両面から捉える訪問看護アセスメント・プロトコル. 第3章. 中央法規. 2015.
5. 鈴木和子他 : 家族看護学 理論と実践. 日本看護協会出版会. 2012.
6. 小林奈美 : 実践力を高める家族アセスメントPart1 ジェノグラム・エコマップの描き方と使い方カルガリー式家族看護モデル実践へのセカンドステップ. 医歯薬出版. 2009.
7. 渡辺裕子編 : 家族看護を基盤とした在宅看護学. 概論編 日本看護協会出版会. 2014.
7. 渡辺裕子編 : 家族看護を基盤とした在宅看護学. 実践編 日本看護協会出版会. 2014.
8. 家族ケア研究所 : 家族生活力量モデル アセスメントスケールの活用法. 医学書院. 2002.
9. コニー・M・デニス著・小野寺杜紀訳 : オレム看護論入門. 医学書院. 1999.

【学修の準備】

関連する文献を事前に熟読して授業に臨むこと